



介護保険情報

火曜日・金曜日送信
(祝日を除く)

株式会社医療タイムス社

取材などの依頼は編集企画部まで

☎026-217-8770

FAX 026-235-6089

✉nagano@times-net.net

この情報は契約会員のみ提供するものです。従って複製等により第三者へ流すことはご遠慮ください。

特養サンライフおみでオンライン診療の実証事業

感染症流行や緊急時に活用

松塩筑木曾老人福祉施設組合は特別養護老人ホームサンライフおみ(東筑摩郡麻績村)で10月29日、テレビを使ったオンライン診療の実証事業を開始した。テレビ松本ケーブルビジョン(松本市、佐藤浩市会長)と連携し、感染症流行時や緊急時に、サンライフおみのテレビに接続したデジタルチューナーからテレビ電話アプリにアクセスし、嘱託医がオンライン診療をする。

サンライフおみでは週2回、嘱託医として松林医院(同築北村)の松林茂之医師が訪問し定期的な診療を行っているが、クラスターの発生時や緊急時は施設での診療が困難なためオンライン診療の活用を検討していた。

テレビ松本は、高齢者でも負担の少ないテレビを使ったオンライン診療のサービスを展開しており、これまでは単体の高齢者宅のみでの導入にとどまっていた。介護施設にもサービス展開したいと行政に相談したところ、百瀬敬塩尻市長が管理者を務める同組合が興味をもち、サンライフおみでの実証事業に至った。実証事業では無償でサービスを提供する。

オンライン診療はテレビ電話アプリでサンライフおみのテレビやタブレットと松林医院のパソコンをつなげた。入居者の家族もつなげた3者でのオンライン診療も可能。プライバシーに配慮し、施設の看護師が付き添った上で施設の医務室または他に入居者のいない居室で行う。



【次ページへ続く】

29日の初接続では、医務室と居室で各1人診察した。医務室の診察では、テレビを介し、松林医師が看護師に体温と血圧を確認した上で、「特に具合悪いところはないですか」と利用者へ問診した。居室での診察では、タブレットを介してベッドに寝た利用者の脚の水疱の状態を確認した。

松林医師はオンライン診療について「オンライン会議のツールと比べて簡単で非常にやりやすい。以前は看護師との電話の内容で推定するしかなかったが、視覚を通して情報がしっかり入ってくるので有用だと思う」とメリットと期待を話した。

同組合の池田光宏事務局長は「組合が運営する他施設の嘱託医らと協議した上で早ければ年度内に他施設でもサービスを導入したい」と見据えた。

テレビ松本は今後、他法人の施設でもサービスを展開したいとしている。

長野のケアマネ協全国大会に 650 人超 5年ぶりに完全参集

日本介護支援専門員協会(柴口里則会長)と県介護支援専門員協会(小林広美会長)は10月26、27の両日、長野市のホクト文化ホールで「第18回日本介護支援専門員協会全国大会 in ながの」を開いた。「R e - S t a r t (再出発) ~ R e a l i z e (具体化・実現) / R a d i a n t (光輝く) ~」をテーマに全国から650人を超えるケアマネジャーが参加。コロナ禍を経て5年ぶりに完全参集で開催した。



柴口会長は「次の団塊の世代が高齢者となる2040年に向け、社会から求められる介護支援専門員の役割と期待も変化している。講演や分科会で実践を学び、考察を深めることで課題がリスタートし、具体化・実現につながることを期待している」とあいさつ。また、職能団体として「4月にはトリプル改定が行われたが、今から次の改定に向けて具体化、実現性を考え、行動を重ねなければならない」と述べた。

基調講演では、厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課の吉田慎課長が「介護保険制度の現状と今後の動向について」をテーマに講義した。吉田課長はケアマネの離職要因のトップに上がる事務負担・業務負担が大きい課題に

【次ページへ続く】

ついて、本来ケアマネの業務ではないと考えられている入院・通院時の付き添いや介護保険以外の行政への手続きや申請の代行などを業務としてやらざるを得ない傾向が高いと指摘。これらの1カ月の合計対応時間は9.5時間、総労働時間に占める対応時間の割合は7.2%だったと説明した。その上で、業務負担外の担い手の確保として「行政は、ケアマネの業務を仕分けした上で適切な機関(NPO、ボランティア団体など)につなげられる環境整備が求められる。資源がない地域も行政が中心となって資源を作り出す努力が必要」と話した。

このほか、おく内科・在宅クリニック(大阪府)理事長の奥知久氏が「いのちの煌めきを共創るケア」、生活互助支援の会(北佐久郡軽井沢町)代表理事の美齊津康弘氏が「30年間誰にも言えなかった僕の家族の物語～元ヤングケアラー当事者から伝えたいこと」と題してそれぞれ講演した。

26日、松本とウェブで人材採用研修 県宅老所GH連絡会

県宅老所・グループホーム連絡会(今井祐輔理事長)は26日午後1時30分から、松本市の長野県理容会館とオンライン(Zoom)のハイブリッド形式で人材採用研修「人材確保のイ・ロ・ハを学びましょう!」を開く。

IKI&IKIの橋本芳裕CEOが「総論(マーケット、最新の求人媒体、各媒体の使い方)」、県介護支援課介護人材係が「県介護支援課による人材採用に関わる件の政策説明」、特定技能外国人登録支援機関VACREWORLDの伊東進代表が「海外人材最新情報セミナー」をテーマにそれぞれ講義する。

受講料は会員4000円、一般8000円。定員は会場50人、Zoom90人。希望者は11日までに専用フォーム(<https://forms.gle/sDDUFwGWe8mhqpkSA>)から申し込む。

問い合わせは同会事務局(Tel 0263-87-1313、Fax 0263-87-5532、メール info@nagano-taku-gh.jp)へ。

熱中症搬送、過去最多 5～9月、全国で9万7578人 総務省消防庁

総務省消防庁は10月29日、熱中症のため5～9月に救急搬送された人数が全国で9万7578人に上ったと発表した。昨年の同時期から6111人増え、統計を取り始めた2008年以降で最多。今年は厳しい暑さが長期間にわたって続き、月別では6月と7月が過去2番目の多さ、9月は初めて1万人を超え、過去最多となった。

年代別では、65歳以上の高齢者が5万5966人と全体の57.4%を占めた。発生場所別では、自宅など「住居」が3万7116人と最も多く、「道路」が1万8576人で続いた。搬送直後に死亡が確認されたのは120人だった。